

2019 年度英語 FD 英語 de ランチミーティング

「研究室の留学生と日本人学生って協働してますか？」活動報告

グローバル教育院

日 時：2019 年 6 月 19 日(水) 12:10~12:50

場 所：遠隔システム SmoothSpace 利用・両キャンパス同時開催

府中キャンパス：本館 1 階第 5 会議室・小金井キャンパス：13 号館 4 階 402 室

概 要：“留学生と日本人学生の協働を活性化させるための工夫”

参加者：本学教員（ポスドクを含む） 24 名

ファシリテーター：工学府特任助教 Dr. Nehal Hasnine・農学府特別研究員 Dr. Hossein Mardani

使用言語：英語



今回の FD 英語 de ランチミーティングでは、「研究室のグローバル化を推進するにはどうすればいいか」について英語で意見を交換した。かつて本学の留学生だった Nehal Hasnine 氏（小金井）、Hossein Mardani 氏（府中）がファシリテーター役を担当し、議論を進めた。参加者は、農工両学府の教員、グローバル教育院教員等 24 名（国籍：日本、フランス、イラン、バングラデシュ、インド、ベトナム、タイ、インドネシア）であった。これまで留学生を多く受け入れてきた両学府の教員から過去の経験を踏まえた様々な事例が紹介された。

農工分かれてのグループディスカッションのあと、全体で論点を共有した。その中で、研究室で留学生と日本人学生がうまく協働していくためのポイントとして以下の点が挙がった。

- ・研究室内の留学生比率が 20 % であると研究室内のコミュニケーションが活性化する。
- ・特定の国籍に偏らないメンバーで研究室を構成し、使用言語を日本語と英語のみにするといい。
- ・一方で、同国籍から 2 名いると母語が話せて生活がスムーズに行く場合もある。
- ・奨学金や宿舎が充実すると研究室のグローバル化も進む。

<参加者アンケートから>

◆FDを通してどのような気づきがあったか

- ・情報をシェアしていくことで問題点が見出された。
- ・研究室内で留学生が面している問題点がわかった。
- ・日本人学生の英語力養成、留学生の日本語力養成にどう取り組むかが課題。
- ・セミナー運営のアイディア：英語スライド：日本語プレゼン／英語プレゼン、学生（日本人学生・留学生共）に U→M→PhD の順で質問を考えさせる。
- ・FD とはどのようなものでどのような活動をしているかがわかった。
- ・外国人の先生方が農工大のグローバル化に対してどのような考え方をお持ちなのかがわかった。
- ・どうすればグローバル化のさまざまな側面を研究室で活かし、働きやすい環境づくりを構築できかがわかった。
- ・大学内のダイバーシティに向けて努力している教員が大勢いることを知って、自分の努力も意味があることを再確認できた。
- ・研究室における留学生の割合、また研究室のスタイル等、他学科の先生方のお話が大変興味深かった。

◆全体コメント

- ・このような会を定期的に実施するといい。
- ・今回のように外国人教員、日本人教員が問題を共有することが、国際化に関連する本学の問題解決の糸口となると考える。
- ・留学生に関わっている先生方とお話し普段感じていることについて共有できてよかったです。
- ・ディスカッションが活発でよかったです。
- ・今回の議論を日本語で行い、さらに多くの教員が意見を交わすといい。
- ・今回のようなイベントは既に国際事業に多く関わっている教員のみではなく、全教員、必須参加とすべきである。教授会で「研究室における留学生 20 %の意義」を議論すべき。
- ・自己紹介部分を軽くし、ディスカッションにより時間を使えたらと思った。
- ・「研究室」がテーマだったので研究室を持たない教員は議論がしにくかった。
- ・「協働」をどうとらえているか議論してみたい。
- ・留学生に対する日本語授業は長期滞在者にはもっと増やすべき。
- ・外国人留学生をどのようにある程度の割合で常に在籍させるかが各研究室の課題。外国人留学生が存在する意義を日本人学生がきちんと把握できれば彼ら（日本人学生）の将来への影響は計り知れない。教職員側の仕事の一部として、その場を提供することが重要。